

諏訪之瀬島の火山活動解説資料

福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方気象台

＜噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引下げ＞

諏訪之瀬島の御岳（おたけ）火口では、1月14日00時22分に爆発が発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口中心から最大で1.1kmまで飛散しました。その後、御岳火口中心から1km付近まで飛散する大きな噴石は確認されていません。

諏訪之瀬島では御岳火口中心から1kmを超える範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったと判断し、本日（19日）11時00分に噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引き下げました。しかしながら、現在も噴火活動が継続していることから、御岳火口中心から概ね1kmの範囲では、噴火に伴い大きな噴石が弾道を描いて飛散する可能性があります。

【防災上の警戒事項等】

御岳火口中心から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

○ 活動概況

御岳（おたけ）火口では、1月14日00時22分に爆発が発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口中心から北方向に1.1km、南方向に1.0kmまで飛散しました。噴煙は火口縁上500mまで上がりました。その後、爆発は発生していませんが、噴火活動は継続しており、噴石が火口中心から最大400mまで飛散しました。噴火活動のさらなる活発化は認められません。

GNSS連続観測では、島の西側深部におけるマグマの蓄積量の増加と推定される変動は認められません。島の西側で発生していると推定される火山性地震は少ない状態で経過しています。ナベタオ傾斜計（御岳火口より南西約2.2km）においても、火山活動による特段の変化はみられていません。

諏訪之瀬島では御岳火口中心から1kmを超える範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったと考えられますが、現在も噴火活動が継続していることから、火口中心から概ね1kmの範囲では、噴火に伴い大きな噴石が弾道を描いて飛散する可能性があります。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、東京大学及び十島村のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。



図1 諏訪之瀬島 警戒が必要な範囲

御岳火口中心から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

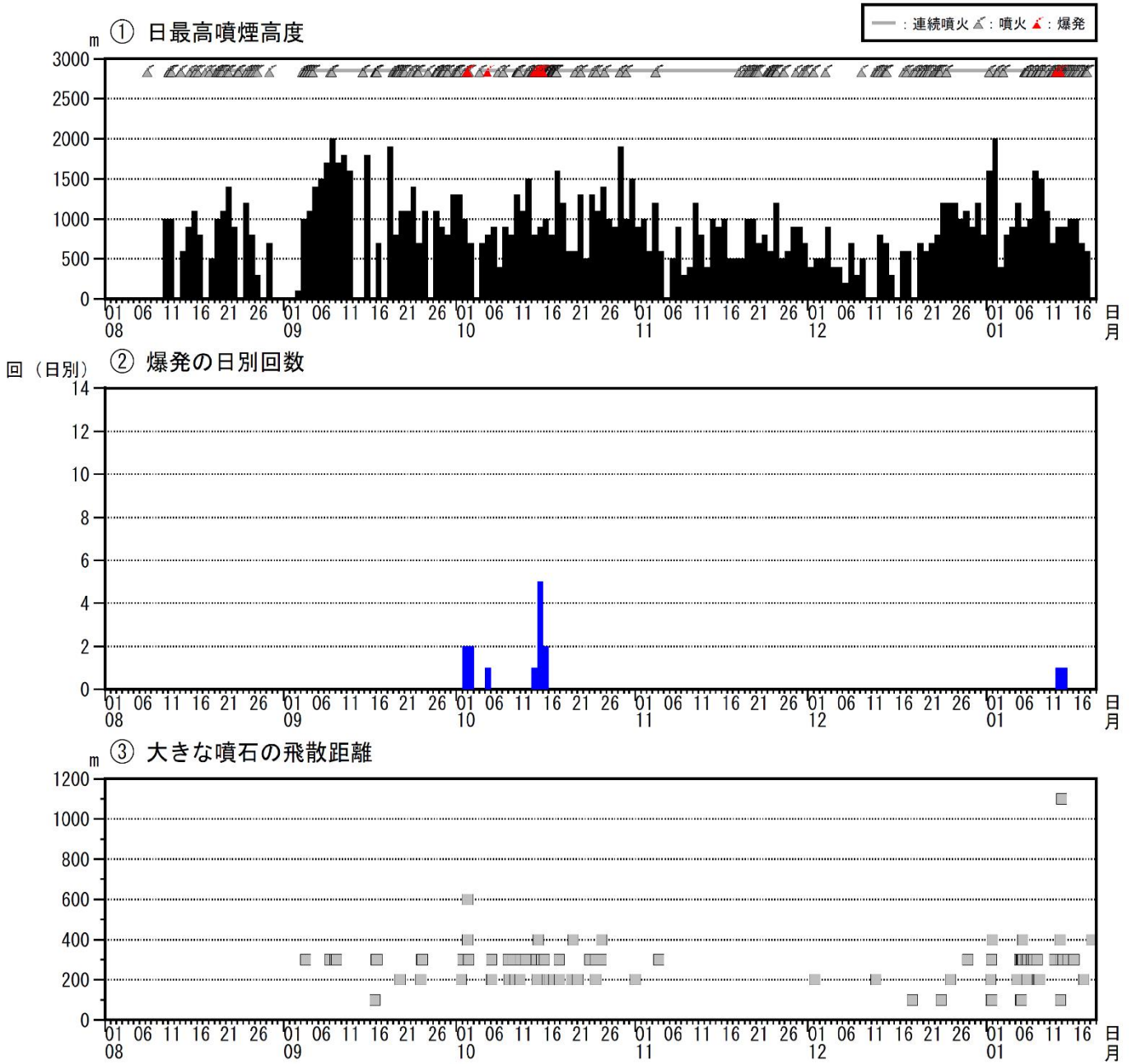


図2 諏訪之瀬島 爆発の日別回数と噴石の飛散距離 (2023年8月1日～2024年1月19日08時00分)

- ・ 1月14日00時22分に爆発が発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口中心から最大で1.1kmまで飛散しました。
- ・ その後、爆発は発生していませんが、噴火活動は継続しており、噴石が火口中心から最大400mまで飛散しました。噴煙は最高で火口縁上1,000m以上に上がりました。

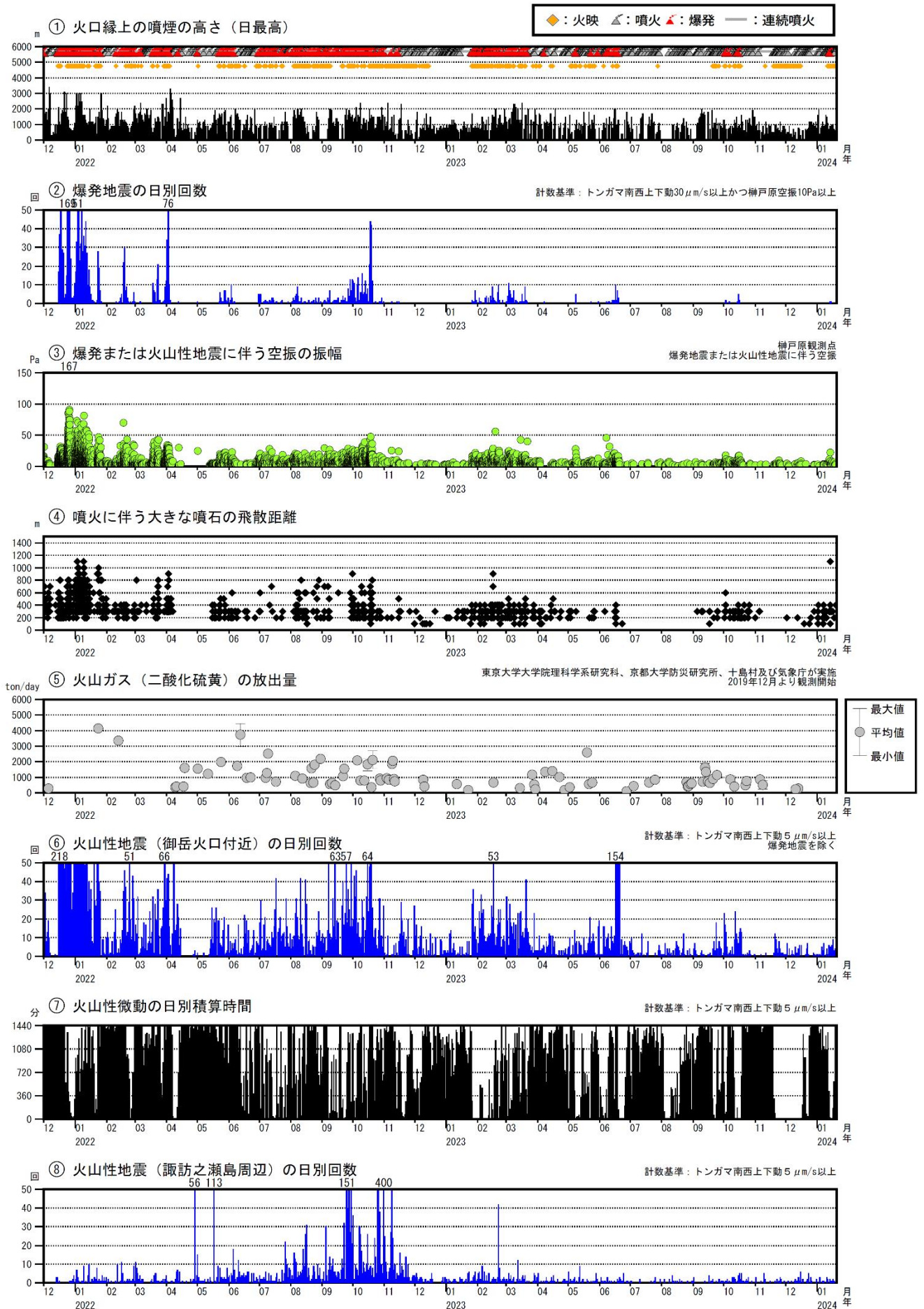


図3 諏訪之瀬島 最近の火山活動経過図 (2021年12月～2024年1月19日08時00分)

- ・爆発は2023年11月以降発生していませんでしたが、今年(2024年)1月13日と14日にそれぞれ1回発生しました。このうち14日00時22分に発生した爆発では、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口中心から最大1.1kmまで飛散しました。その後爆発は発生していませんが、噴火活動は継続しており、噴石が火口中心から最大400mまで飛散しました。
- ・火山性微動は主に噴火に伴って発生しました。
- ・諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は少ない状態で経過しています。

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、十島村及び気象庁は2019年12月より火山ガス(二酸化硫黄)放出量の観測を始めました。火山ガス放出量は噴火の直後に計測した場合、値が大きくなり、噴火の発生前に計測した場合には小さくなる傾向があります。

トンガマ南西観測点の地震計の機器障害により、ナベタオ観測点または御岳南山腹観測点で計数している期間があります。

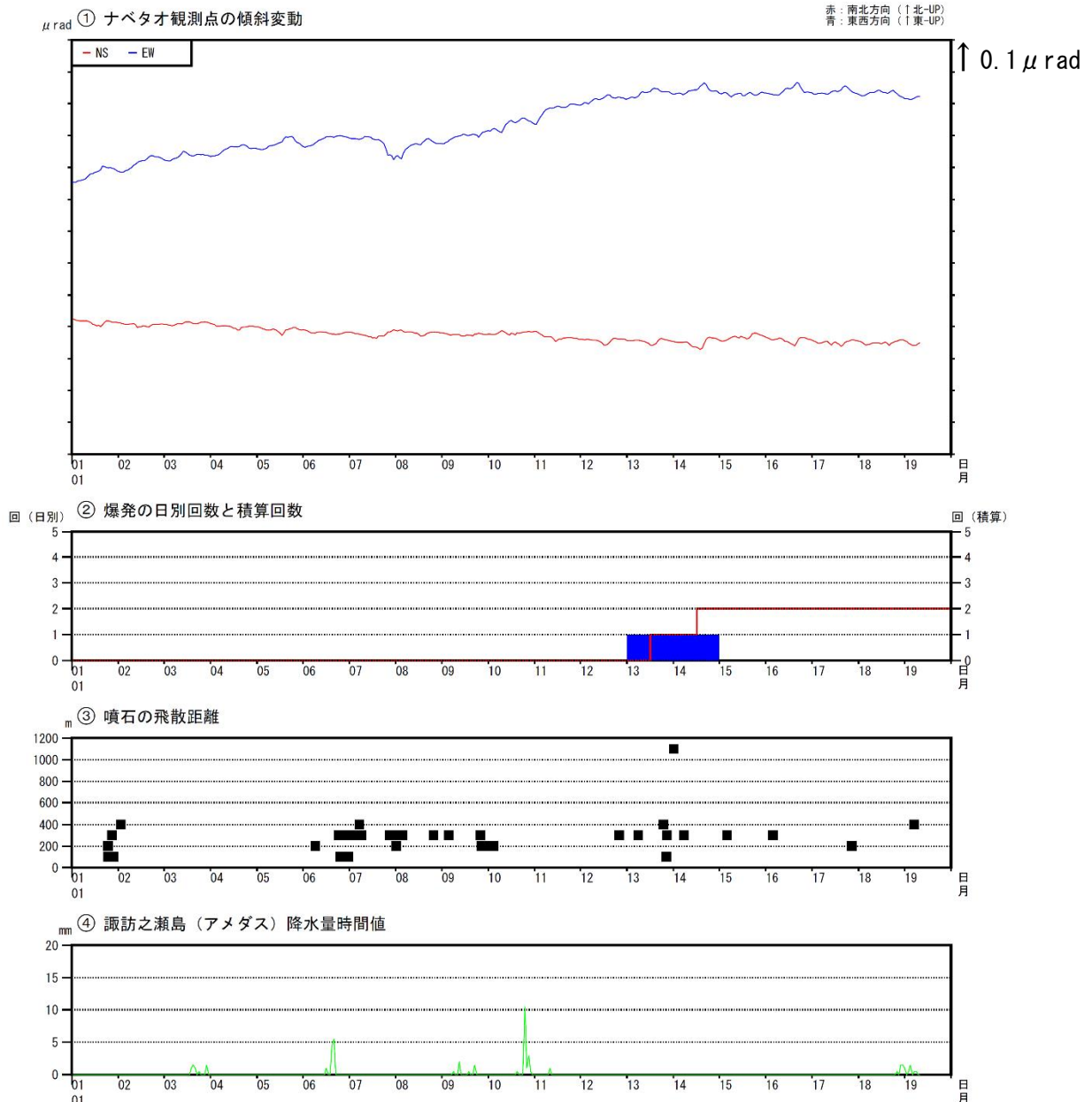


図4 諏訪之瀬島 ナベタオ観測点の傾斜変動と噴火活動 (2024年1月1日～1月19日08時00分)

- ・ナベタオ傾斜計(御岳火口より南西約2.2km)では、火山活動による特段の変化はみられていません。
- ・1月14日00時22分に爆発が発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口中心から最大で1.1kmまで飛散しました。その後、爆発は発生していませんが、噴火活動は継続しており、噴石が火口中心から最大400mまで飛散しました。

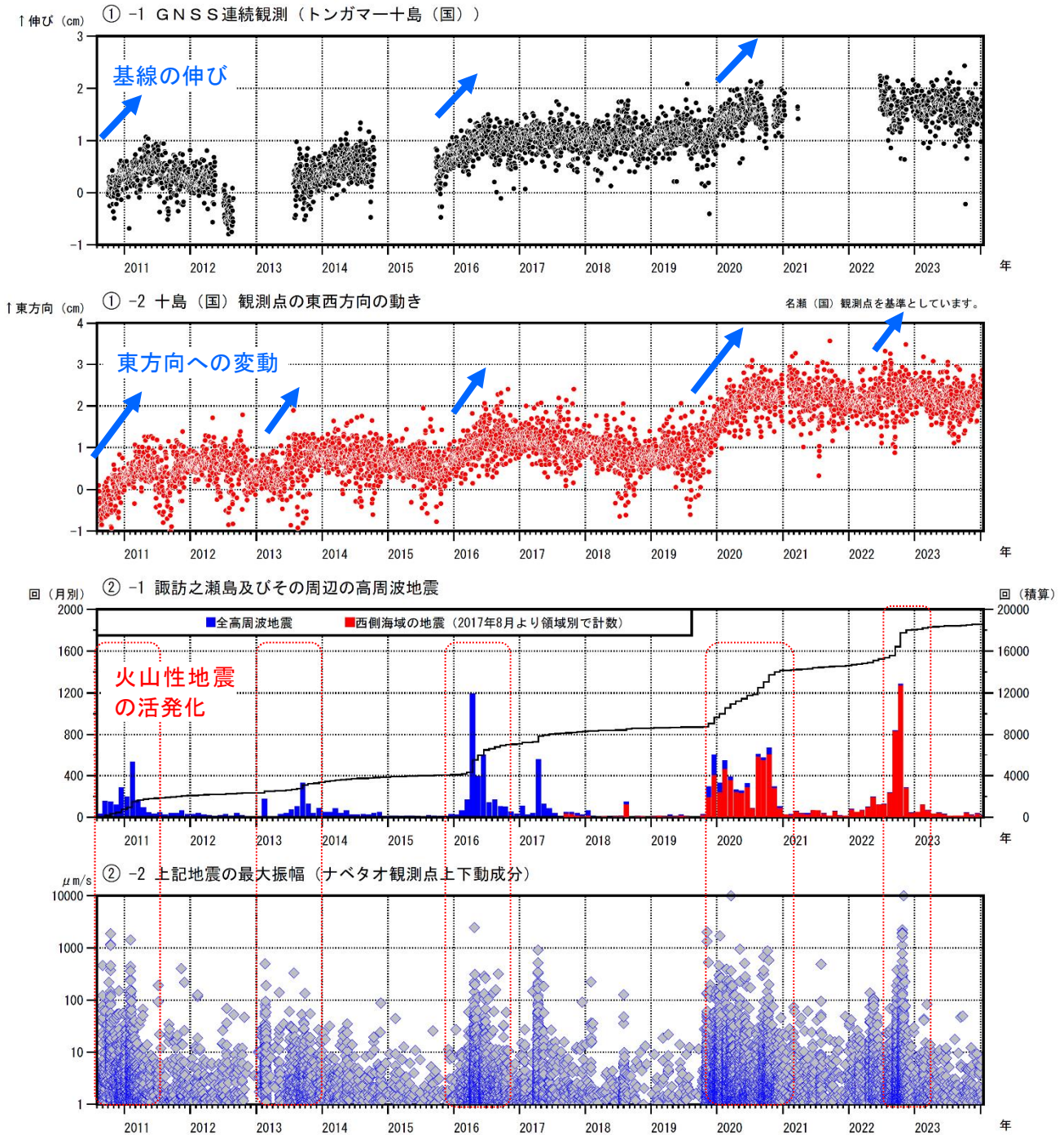


図5 諏訪之瀬島 GNSS連続観測と周辺の火山性地震（2010年8月～2024年1月17日）

- ・GNSS連続観測では、島の西側深部におけるマグマの蓄積量の増加と推定される変動は認められません。
- ・諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は少ない状態です。振幅の大きな火山性地震は発生していません。

①-1の基線は図6の①に対応しています。①-2は島外の観測点(名瀬(国))を固定した観測点の東西の変動を示しています。空白部分は欠測を示しています。

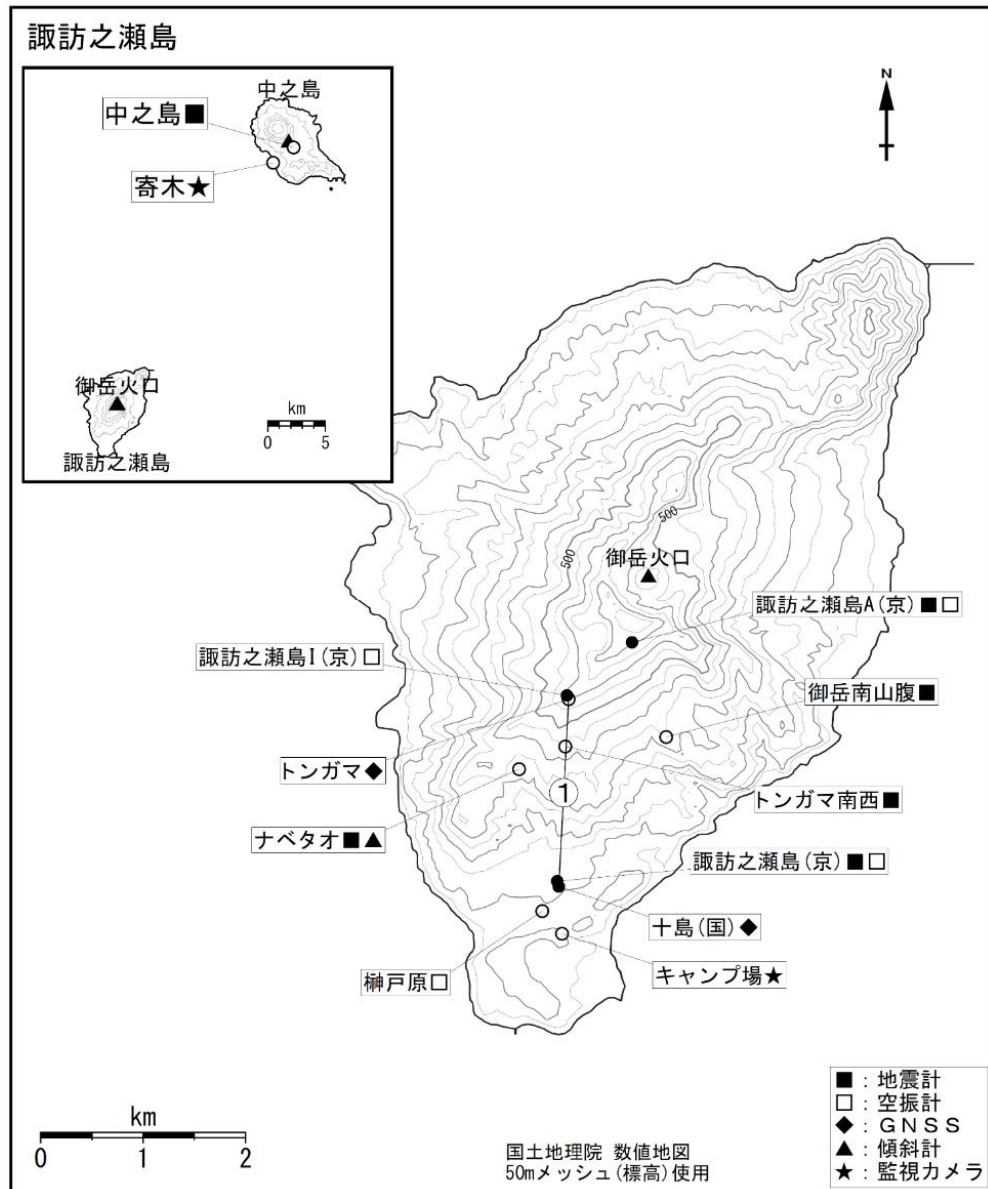


図6 諏訪之瀬島 観測点配置図とGNSS連続観測による基線番号

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国)：国土地理院、(京)：京都大学